

## 学校番号 44

### 秋田県立増田高等学校中期ビジョン（5か年計画）

#### 1 本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

##### （1）学校の現状や課題

- ①本校は県南地域で農業の専門学科を設置している学校2校のうちの1校であり、横手・湯沢地域の農業を多くの卒業生が支えてきました。しかし、農業を取り巻く社会的状況が厳しい中、農業系の一般企業の求人が少ないため、非農業系の一般企業へ就職する傾向が強くなっており新規開拓を進めています。本地域は県内屈指の複合農業地帯であり、兼業農家として農業を継ぐ生徒は多い一方、専業農家の後継者については果樹を中心に毎年のようにいるもののその数は少ない状況です。
- ②本校の総合学科は、平成7年度に全国に先駆けて本県で初めて設置された学科です。その後、幾度の系列の再編を行い、現在、「人文・社会科学」、「自然科学」、「芸術・文化」、「ビジネス会計」、「生活・福祉」の5つの系列があります。しかし、生徒減に伴う学級減や生徒の進路希望の多様化があり、生徒の進路実現のために、ニーズにあった適切な系列選択と、系列の専門性の深化を図るよう、教育課程の編成を工夫していきます。  
本校では、各種の資格取得を奨励してきましたが、その受検対策の指導に限らず、将来の人生設計や希望する進路における当該資格の有効性を周知させる機会を設け、生徒が目標を持ちながら計画的に学習し、より多くの生徒が高度な資格を取得できるよう支援していく体制の整備を進めています。
- ③農業科学科、総合学科とも大学進学希望者数が減少してきています。相応の基礎学力と志がありながら、学力の伸長が十分に図れないため大学進学を断念している生徒もいることを踏まえ、高校3年間を見据えた、計画的・組織的な学力向上対策を進めていくとともに、AO入試や推薦入試制度を積極的に活用することで、生徒一人一人の特性を生かして進路目標を達成していきます。
- ④おおらかで優しく純朴な生徒が多いのですが、主体的に課題を見つけ、自ら解決しようとする力がやや不足しているため、学校全体で組織的・継続的にアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を図っていきます。さらに、生徒の実態を踏まえ、インターンシップ等体験的な活動の充実を図り、キャリア教育を推進していきます。

##### （2）学校を取り巻く将来の状況の予測

- ①県南地域は今後も児童・生徒の減少が続きますが、地域を担い、その活性化に貢献できる人材が求められることから、地元に着し、農業や製造業、商業等の産業を支える若者が非常に貴重な存在となっていきます。
- ②東日本大震災以降、東北地方の経済は大きな打撃を被りました。しかしその後の復興政策に加え、政府による大規模な経済政策により、経済活動の活性化と若い人を中心とした雇用の創出や、秋田県全体または当地域への波及効果が期待されます。当地域の農地活用や農産物の付加価値と雇用を生み出す6次産業化の推進、地域の人材や資源を生かした地域力の向上や地域コミュニティの活性化など、地域を支える面での本校の教育力や人材育成への期待も今後高まることが予想されます。
- ③ 目指す方向性や学校像

- 1 心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな人間の育成
- 2 自ら学び、自ら考え判断し、主体的に行動できる人間の育成
- 3 正しい勤労観を持ち、郷土の発展に貢献する人間の育成
- 4 社会の変化に柔軟に対応し、21世紀をたくましく生き抜く人間の育成

## 2 5年間で達成を目指す具体的目標（具体的な取組等）

(1) 農業科学科における就農や農業研修、農業関係の事業所等への就職など農業関係先への就職率20%を目標とします。

- ①卒業生や地域の関係者と連携をとり、地元農業系企業への就職の紹介を依頼します。
- ②授業や農業クラブにおける交流事業等を通して、地域へ農業科学科の活動を広く周知します。
- ③農業系大学進学率15%、うち国公立大学進学者数2人を目標とし、卒業後高度な知識・技能を習得し地元に戻って貢献する人材を育成します。
- ④課題研究やプロジェクト発表等、農業科学科の諸活動をホームページ・各種メディアで発信します。

(2) 総合学科の進学率70%を目指します。

- ①国公立大学進学者数5人を目標とします。
- ②大学入試センター試験を活用した入試だけでなく、AO入試や推薦入試といった多様な評価尺度を重視した入試への積極的な挑戦を支援します。具体的方策としては、朝や放課後の補習、土曜や長期休業中の補習、予備校講師による進路ガイダンス・小論文対策・面接指導を充実させます。

(3) 就職希望者の県内企業への就職率60%を目指します。

- ①1年次の「産業社会と人間」や2・3年次の「総合的な学習の時間」に、県内企業の事業内容や地域貢献等の魅力や特徴を関係機関と連携しながら紹介し、企業見学の機会を設定します。
- ②各系列の研究成果を発表する課題研究発表会の内容を改善し、就職内定者の活動内容を報告させる機会を新たに設けるなど、キャリア教育の内容を充実させ、進路意識を高め、進路に具体的に取り組む力を向上させます。
- ③県警、消防、官公庁等の応募者数を増加させるとともに、合格率の向上を目指します。
- ④県内企業の見学会を学校独自に実施し、3年間を見通した県内企業へのインターンシップを計画的に実施します。
- ⑤職場開拓と指定枠の拡大を目指します。

(4) 特別活動において、東北大会以上出場の部活動（クラブ活動）を毎年3～4種目出します。

- ①運動系部活動を強化します。野球部、陸上競技部、ソフトテニス部をはじめ、複数部の全国大会・インターハイ出場を目指します。
- ②文化系部活動も強化します。美術部や書道部、吹奏楽部をはじめ、複数部の全国高校総合文化祭代表やコンクール等各種大会受賞を目指します。また、地域との交流・連携を通じた地域文化の発展に貢献します。
- ③日本学校農業クラブ全国大会競技会の優秀賞1人または団体の入賞を目指します。

(5) 専門科目や系列の科目の学習をもとにした資格、検定合格者数の目標を次のように設定します。

日本漢字能力検定2級	10人
実用英語技能検定2級	3人
日本農業技術検定2級	3人
全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級	受験者の9割以上
全国高等学校家庭科被服製作技術検定1級	受験者の9割以上
全国商業高等学校協会情報処理検定1級	5人
全国商業高等学校協会簿記実務検定1級	3人